

---

# ワンピース クロス ゼロの使い魔

ろくてんこうかくしゃいん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ワンピース クロス ゼロの使い魔

### 【Nコード】

N8085L

### 【作者名】

ろくてんこうかくしゃいん

### 【あらすじ】

ワンピースの世界に転生した オリ主が生まれた島はゼロの使い魔にでてきた ルーンが存在する まか不思議な島だったお話です

転生 オリ主ものは けいかくてきに

俺は今 非ジョー に 困っている！

自分でも なにがどうなっているのわからない

自分はなぜか 高層ビルがたちならぶ 某会社  
のオフィスで深  
夜残業中 コーヒーを飲んでいたはずなのに

きがついたら ワンピースの世界へきてしまったのだから

ここに 転生者 マックス・B・カイダ の物語がはじまる

これより ワンピース クロス ゼロの使い魔 はじまります

次回予告 はじまりの島は 不思議がいっぱい ルーンがいっぱい

期編 作者の 妄想の産物が 生んだ オリ島 での幼少  
ころころ期待



## トリステリン王国

僕はあえぎながら、ベットから身を起こした

2段ベットの上に寝ているからか 体が不安定に揺らぐ

天井が近づいて、明かりの差す窓を見てみと

「夢か……夢、だよな？」

ひたいにべつとりと汗をかいていた。

なぜなら 窓の外には 青々とどこまでも広がる大海がどこまでもつづいてい風景がうつつっていたからだ。

ビークール、ビークール落ち着け 僕！ ここはまず 今の状況  
確認だ

Q ここは夢？

A ほっぺをつねった結果 夢ではない orz

Q 僕は誰？

A 飼田 浩太 カイダ コウタ 23歳 会社員

Q なんかちっちゃくなってね？

A 5歳児くらいになってるZE ワロスワロス なんでやねん！

と 一人ツッコミをしていたら

「うるさいな〜」

とズットの下段から声がした

「どっつしたの、マックス？」

すこしだけ高い、舌足らずな声で

「大丈夫？あの、なにか、嫌な夢でもみたの？」

「ん、だれ？」

「私は カジカだよ」

ここは 今の状況を確認する チャーンスW

「あのさ ちょっと聞きたいことあるんだけどいいかな？」

カクカクシカジカ とここのことをきいたことで大体の状況がわかった

Q ニジはどニ

A ノースブルーにある島のひとつで トリステリン王国という名の国

Q 僕はだれ？

A マックス B カイダ 6歳 トリステリン王国の貴族

Q 今はいつ

A 大航海時代 大海賊 ゴールド・ロジャーが処刑されて一  
年目らしい

僕は ワンピースの世界にきてしまったみたいだ MAJIDE!

こうなれば 目指すか ワンピース 大冒険がまってる ZEE  
EEEEEEEE!!!!

と想っている 時期もありましたが なんか原作にないものがあ  
るんですが。

だってさ ルーン ってなによ？ ゼロの使い魔ですか？ 貴族だけが使える 超法規的措置ってwww

しかも母親談によれば 「貴族になるためには長いので省略」  
ちまたにあふれる下賤な海賊どもをほふる貴族にのみにゆるされた力らしい」

もうマジでチートですよおくさん 特にわが母親のルーン<コマンド> 人形を自由自在にあやつり敵を攻撃するとか どの格ゲーですか！

しかも毎日 優秀な貴族になるための試練とかいって 毎日毎日母親の人形相手に修行をつけられます

おくさん もうわたしのライフはゼロよ……

と地面に大の字で倒れていると

「すこしはカジカちゃんをみならいなさい！」

「イヤイヤ 無理だって なんで六式 つかえるチートやるつと俺を同じにすんな！」

そんなんです わが従兄弟の カジカは原作でもでてきた 六式  
使いなのです 同じ歳なのにうらめしい……

「シュバツババと動いたら できるよ」

とは カジカ談

どこの 長嶋語 だよ！

「はー 不幸だ……；；」

t  
o  
b  
e  
c  
o  
n  
t  
i  
n  
u  
e  
d

土曜か日曜日 更新予定



ルーンがいっぱい 不思議がいっぱい

~~~~マックス視点~~~~

あれから 4年がたち イロイロありましたが ついに念願のルーンをもらえるようになりました！ なんでも国一番の神殿でルーンを刻む儀式をやるようです

俺的に 敵から逃げるため(元日本人の悲しい性) 探査系のルーンが大変うれしいです 実の両親も探査系(父)と操作系(母)なので期待大です

なんでもルーンは人それぞれ違った所に現れ その人の性質がよく現れてるらしいです

だが これは無いと思いました

なかでなにか蠢いてるフラスコ( 物体X )をもらい それを飲むのですが

「なにこれ！ 超怖い！！！ まずそうとていうか なんとていうか  
なんか新しい生命うまれてきちゃいそつだよ！」

と怖がつていと

「グイツと逝こうね」

ちよついつきはかんべ……

我が 従兄弟カジカにより 無理やり飲まされました orz

不味い 拙い マズイ 死ぬほど MAZIEEEEEEEEE  
EEEE！！！ とのた打ち回つてると ルーンが出てきました

ルーンがでてきた瞬間 あまりの熱さに気を失いそうになります

だが おへその辺りに現れた <ステファン> というルーンがで  
てきたことにより 安堵してしまい気を失ってしまいました

~~~~カジカ視点~~~~

みなさん はじめまして カジカ・ラージャンともうします

目の前では ルーンがでたショックで絶賛気絶中の従兄弟が フラ  
スコまるまる一瓶 一気飲みは さすがにキツかったみたいですね

まあ さすがに あれはないかなとは思いちよつと反省しましたが

わたしは 最後のほうにちよつと残ったやつを 飲むと 体がポカ  
ポカして 舌にピリツと刺激を受けたので 鏡をみると

私の舌に <グルメ> のルーンがでました

そのあとつつがなく儀式が終わり 気絶中のマックスを背負い 「  
剃」と「月歩」を使い家路につきます

ルーンの効果のせいかな ものすごくおいしいものが食べたいです！

むむ！ 今日のお昼ご飯は カレーですね いそいでかえらねば  
(この時 気絶から目が覚めたマックスのカレーはなく 凹んだの  
はまた別のお話)

ルーン <ステファン> 硬化能力 ぶっちゃけ「鉄塊」良い点は自分以外の物にも使える点悪い点は持つてないと意味がないこと

ルーン <グルメ> 身体強化能力 味覚 嗅覚などを素晴らしいレベルまでに強化でき おいしいものを何倍にもおいしくいただけるようになる

t  
o  
b  
e  
c  
o  
n  
t  
i  
n  
u  
e  
d



ルーンがいっぱい 不思議がいっぱい（後書き）

マックスのイメージは とらドラ！の 高須 竜児 カジカのイ

メージは とらドラ！の 櫛枝 実乃梨 ミノリン

お読みいただき有難う御座いました。

## バスターコール

~~~~マックス視点~~~~

「ぐ、これが ガンドムの性能というやつなのか……」

俺の目の前には 覇気にめざめ白く輝くオーラをだす カジカのすがたが……

なぜ こんな状況になってしまったかというと

自分のルーンを試そうとお思い 裏山にある修練場で <ステファ  
ン>のルーンを出してみると あまりのシヨボさに涙がでてきた

なぜなら 硬化の能力を 試してもなにもかわらず 自分自身で確  
認できなかったからである orz

なんとなく硬くなつたかなという感じはあるので一応は成功してる  
と思うのだが 自分では判断不可

そんなとき

「お〜い なにやってるんだ〜 私もまぜてくりい〜」

といつもの 少し舌足らずで高い声の カジカがやってきた

ちよつどいいと思い ルーンの確認をお願いしてみると

「剃」 「指銃」 「鉄槌（鉄塊状態でのかかと落とし）」

「ぐはっ ! ! !」

見事に3連コンボくらわされました だがいつもならこれで確実に  
ダウンするところを耐え切つたのである！（感動）

だが次の行動がいけなかつた つい調子にのり秘密にしていた 覇  
気をだしてしまつたのである なぜか自分の覇気は黒いオーラみた  
いなのを体からだすのである ある意味なんか憑かれててそうで超  
怖い ガクガクブルブル（；。。）

こんなものを出してしまつたものだからカジカに「それにはい〜？」  
とものすごい好奇の目で見つめられています

う〜ん 悩む某狩人風の修行をしていたら出て来たものだし 下手  
をしたらルーン至上主義（貴族至上主義）の母に見つかったらなに  
言われるかたまたもんじゃない ただでさえ近頃 あれやれこれや  
れといわれるのにこれ以上つきあってられん！

まあへるもんじゃないしいいかと思いきや軽い気持ちで某狩人風の修行をおしえてしまったっ！

なんか3時間くらい猛練習の末なんと 覇気に目覚めやがった

これが真相である 上記にもどる

俺 覇気に目覚めるのに 2年くらいかかったのに しょせん俺はザクさと 遠い目をして空を見上げていると

「ねえねえ これ(覇気)にも ルーン適応できるんじゃない」

「MAJIDE?」

「たぶん気合でシュパアーンとやればできるよ」

「ふむ シュパアーンはわからんが ダメもとでやってみるか 覇気にルーンを」

「k t k r ちょっはんぱないはこれ 全身鉄塊付き鎧とか絶対防<sup>ス</sup>御なみじゃね しかもこの状態でも動き回れるし」

あまりの驚きに返答が ローマ字になっちゃったZE



と色々考えていると

「あ なにか海のほうからきているよ」

( ; . ; )

( . . ; )

( ; . ; ) ( ; . ; )

。 。 ( / / エヘッ！

見渡すかぎりにある 海に浮かぶ あのカモメの帆は

海軍さまご一行 ご到着です オレオワタ＼ (^o^ ) /

t  
o  
b  
e  
c  
o  
n  
t  
i  
n  
u  
e  
d

次回予告

逃走

初バトル 相手は海軍中将

## 逃走

~~~~~とある海軍准将視点~~~~~

なにやら 空気がなまあたたかいな 一雨きそうだ 船のデッキに  
上がり空をみあげていると デッキのわきのほうで

「とうとう はじまりますね よろしくおねがいますよ」

「そうですねエ〜 ではわたしはその王家の秘宝ってやつをさがせ  
ばいいんですねエ〜？」

海軍中将の黄ザルことボルサリーノ中将がだれかとデンデン虫と話を  
しているようだ まあ中将本人は盗聴用の黒デンデン虫に話して  
いるが いつものことなのでスルーする

「ええ 特に失われた4番目のルーンとゆうやつを第一に探してく  
ださい 絶対にあるはずですよ！」

「ん〜 殲滅するついでに探して起きますよ〜」

「あなたなら大抵のことは大丈夫ですよ なにせロギア系でも速さ  
において右にでるものはいないピカピカの実の能力者なんですから」

「まあ わたしに攻撃をあてれるようなやつは この海ではない  
とは思いますが あの島特有の技術ルーンですかあれはやつかいで  
すよ」 准将クラスや大佐クラスはともかく ほかの船員にはかな  
りの驚異ですねエ」

「ふふふ 安心してください今あの国にはCP9（サイファーポ  
ルナイン）が潜伏しており 合図とともに暴動を起こすように命令  
させておりますから そのスキをつけば ルーンをもっていようが  
関係ないですよ」

「ホゝそれはまたすごい気合のいれようですね ではそろそろ作戦  
開始時刻なのでエ」

「わかりました よりよい返事をまっていますよ」

ガチャッ

「はゝ 仕事とはいえ殲滅か 嫌なことはサクサク終わらして  
いつもの店でいっぱいやるかね」

どうやら中将殿はこの作戦あまり良く思っていないようだ たしか  
にこの作戦 あまりにも不自然だ異様なまでの速さで決められたバ  
スターコール それに将来の大将候補となだかい黄ザル殿が初陣を  
きることといい これはなにかあるかしれないな まあもうまもな  
く作戦開始の合図が上がるので気にしても仕方ないことだが なに  
やら嫌な予感がする 立ち聞きなんてするもんじゃないな

~~~~マックス視点~~~~

やばい やばい なんて無理ゲー？ ただ今全速力で逃走中

そもそもバスターコール「殲滅」ですよね しかも一人のこらず

M I N A G O R O S I

はは わらうしかない しかもこの惨劇ひきおこしてるのが民衆の暴動がすごい 完全武装しちゃってる

それに 王城にもすっごい光の柱が立っちゃってます

エヴァの十字架みたいな光の柱をリアルでみたらマジでひける どの世紀末ってかんじ エヴァン○リオン助けに来てくれないかな

そもそも なんでこうなったのか……

家に帰ってみると 両親の2人が待っていた

「おお無事だったか 2人とも!!」

「怪我はないですね？」

「それより早く逃げましょう」

「いや私たちはここでやることがある逃げるならお前たちだけで逃げよ」

「ちょっとマジでいつてんの？」

「大マジだ!!!!」

そんなに いばるようなことじゃ…………

「だが安心しろお前たちには安全な所に非難してもらおう こいハク！」

どこからか 大きな白い鳩が現れた！

「これは私の<バード>のルーンで従えている 白大ハトの ハクだ！ これに乗り島の外に脱出するんだ」

「おお〜 でもこれ一人乗るくらいのスペースしかないのでは…………」

ウツ!!

「さっさと乗れ それとこれはカジカに 島の外にでたらコレを開けるように」

王家の紋章入りの古い装飾箱を渡してきた

「ではさらばだ　！！！」

ダッツ　！！　とマントをひるがえし　戦場におもむく父の背中を  
俺は見送った

そう　ここまでならよかった　ここまででは……………

ハクに乗り　大空をかけていると海軍が砲弾を雨を降らせてきやが  
った　しかも

「ねえマックスあの砲弾　誰か人がのつてない？」

「はは　砲弾に人がのれるわけないだろ　常識的に考えて」

と目の前を通り過ぎていくこととする　砲弾に目をやると

やばい　あれはやばい　黄色のスーツにあの特徴的なグラスンは

「黄猿　（キザル）！！！！」

ゴッオオoooooooooooo！！

いった瞬間 覇気をくりました おかげでハクが気絶しあえなく  
墜落

「うわああー！ー！ー！ー！ー！」

く、もうすこしで地面まにあつか！？

『覇黒甲 展開 モードファイター』 これはカジカの協力でつく  
った俺のオリジナル技 覇気をルーンで硬め 鎧又は武器にする  
ちなみに俺の姿は  
遊戯王カードのバスター・ブレイダー 真つ黒の全身鎧フルプレートアーマーもちろん背  
中の大剣付き

ドッゴーン！ー！ー！ー！ー！ー！ー！

「ふゝ なんとかまにあつたなところでここはどこだ」

けむりがおさまるのをまっつると 目の前には海軍の兵隊さんがい  
っぱいw

「おまえどこからきた！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ 俺を囲む兵隊さんたち

く、ここは考えても仕方ない

「ここは、おしとおる！ー！」

くらえ！ 『龍滅リュウメツ一文字』

敵に向けて一気に背中の大剣を抜き 駆け抜ける

いつきに駆け抜け抜け包囲網から抜け出したところで どこからか斬撃が飛んできた 大剣の腹で受け止めしのが目の前に

いかついおっさんの顔 しかも背中には 正義のマント

「よくもやってくれたな ワシの名前はCP長官ダー 『真空刃』シンクウジン」  
「とつとと」

チツ！ 避けやがった

「なのっている途中で攻撃するな！ ワシのなまえはCP長官ダー ティシツク中将 なのりを邪魔するようなやつはたたき斬ってやる」

やばい！中將とかどうしよう 剣をもってることから剣士っぽいし あれを試してみるかな

剣をおもいきり振り上げ相手をたたき潰すつもりで振り下ろすが 相手は紙一重でかわし反撃してこようとす

「あまい！..!」

かかった！ 覇気で作っておいた剣をルーンの力によって硬化させる

『ザンゾウケン  
残像剣』

「ぐわっ!?!」

おまけだ 『残像九頭龍閃（ザンゾウクスリュウセン）』

「ぐはっ だがまだまだやられはせんよ」

うはっ マジでしぶとい こいつだてに中将なのってないな

「こんどはこちらからいかせてもらっぞ！」

『刹』 『嵐脚』 『嵐刀』 鎌首カマクヒタチ太刀』

ふっ 甘いのはそっちだこっちはいつもカジカの六式相手に模擬戦してるんだよ六式のくせはみきってるぜ

『そこ！！』

あいての技の合間を縫ってそのスキを突いてやった

「なにい〜!?!」

これでとどめだ 『斬魔ザンマ 龍滅リュウメツ一閃イツセン！！』

覇気を剣に集め巨大化させた剣でいっきに突き 駆け抜ける

「ぐはあっ！！！！！！！」

くずれおち そしてどこからともなく吹いた風が正義のマントが空に舞いあげた

「ダーティシック中將がたおれたぞー」 とほかの海兵がさわいでいるのをしりめに

俺は抜けだし他のやつらが俺から注意をそらしてるすきに 覇黒甲

をとき

はぐれてしまった カジカを探すために駆け出した

t  
o  
b  
e  
c  
o  
n  
t  
i  
n  
u  
e  
d



## 逃走（後書き）

バトル初めて書きました 書いててすごく楽しかったです  
お読みいただき有難う御座いました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8085/>

---

ワンピース クロス ゼロの使い魔

2010年11月16日10時39分発行